

観光庁「海外からのミーティング・インセンティブ旅行誘致に向けた地域連携支援事業」 のモニターツアーの受入（2024/10/22）

テーマ：インバウンド防災ツーリズム

会場：災害科学国際研究所

URL：https://www.mlit.go.jp/kankocho/kobo09_00011.html

2024（令和6）年10月22日（火）に、観光庁の「海外からのミーティング・インセンティブ旅行（M・I）誘致に向けた地域連携支援事業」に採択された、本学も参加している仙台広域 M・I 誘致協議体（代表 公益財団法人仙台観光国際協会 SenTIA）が主催した「世界に誇る仙台広域 M・I 誘致に向けた取り組み」のモニターツアーとして、タイと台湾の旅行業関係者それぞれ3名と、通訳や観光庁等関係者総勢約20名が災害科学国際研究所を来訪しました。

この事業は、本学の知財を中心に据えて海外からの M・I の誘致を目指し、仙台空港との直行便のある台湾や、仙台市が直行便の再開に取り組んでいるタイの旅行関係者を招いて、旅行コンテンツやチームビルディングの造成や磨き上げ、ユニークベニューの活用や新たなイベントの実施等を図ろうとするものです。更には、M・I の機会を活用した海外企業との意見交換等も通じて、本学のシーズとのマッチングから新たなイノベーションの創造への発展も目指しており、東日本大震災の教訓が残る仙台市として特色のある「防災」とその研究を紹介するために当研究所に来訪されたものです。

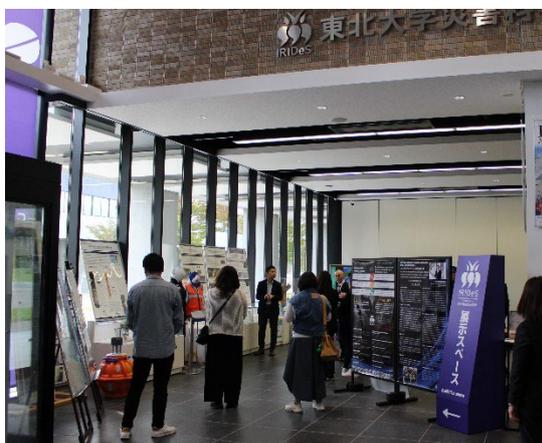
本学からは、タイ出身のサッパシー・アナワット准教授、台湾出身の鄭安棋特任研究員（共に津波工学研究分野）、及び鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が対応しました。

まず、サッパシー准教授が、1階エントランスの展示を使って当研究所の成り立ちや特色、各分野の研究内容の概要について解説しました。また、スライドを使って津波に関する知見や、今年発生した台湾地震による津波の最新の研究結果等を紹介し、津波の分析によって、防災やインフラの敷設といった街づくりにどのように活かされているかについて解説しました。

講話の終了後には一部の参加者には震度体験機等を試用いただき、その後一行はナノテラスを見学しました。翌々日には荒浜小学校も視察しました。

両国からの参加者の関心は非常に高く、また、それぞれの国の出身の研究者が一部母国語を交えて説明したことからも非常に好感を持ち、興味を感じていただきました。

当研究所ではインバウンドの M・I においても防災に通じる取り組みを積極的に支援しており、今後も継続していきます。



展示スペースにおける概要説明の様子



津波に関する研究成果を発表する様子